

皆さん、おはようございます。代議員の皆さん、そして、傍聴者の皆さんにおかれましては、この一年間の職場・地域での活動に対しまして心から敬意を表したいと思えます。

そして、今大会には、お忙しいなか、ご来賓としまして、連合本部より神津会長、吉村知事は公務の関係で少し遅れますが、佐藤山形市長をはじめ多くのご来賓の皆様より出席頂きました。御礼を申し上げあげたいと思えます。ありがとうございます。

さて、今大会は、この2年間の取り組みの総括から、向こう2年間の活動方針について、意思統一を行うべく大会であります。重点的な課題は沢山あるわけですが、特に強調したい課題5点について申し上げていきたいと思えます。

(1) 一つは、何と言っても賃金引上げ・改善に向けた、春闘の取り組みについてであります。「デフレ・からの脱却」・さらには「個人消費拡大」に向けて、賃金引上げをどう図るか。とりわけ、連合山形としては「格差是正あるいは全体的な底上げ」をどう図るか、ということが課題になるわけでありす。

各産別や単組における要求書提出や回答・妥結状況についてであります。今年の春闘の取り組みとして、連合山形傘下の賃上げ対象組合は183組合であります。そのうち、要求書提出組合は全組合の49%であり、回答・妥結組合は43%となっております。

県内的に零細企業が多く、会社の経営状況も厳しいことから、要求書自体もなかなか出せないという組合もあるわけでありす。しかし、要求書を作成し、提出しなければ組合員の厳しい生活や賃金実態を会社に伝えることはできないして、賃上げもなわけでありす。したがって、来春闘では、格差是正と全体の底上げに向けて、まずは、より多くの組合が、要求書を作成し要求書を提出しうるよう「中小労働運動委員会」での議論を踏まえ、各単産・単組の皆さんと連携しながら取り組んでいきたいと思えます。

そして、今年度は地域協議会の再編によって、県内10の地域協議会から6つの地域協議会体制となって10周年を迎えます。それぞれ、10周年の記念事業と同時に、地域春闘の取り組みとして「地域に根ざした顔の見える運動」として、さらに取り組みを強めていきたいと思えます。

また、春闘を社会的な役割として影響力を広めるために、例えば、奨学金ローン問題に見られる貧困の連鎖の問題や、格差是正、さらには地域経済と地域活性化問題などをテーマに春闘期における地域フォーラムなど開催しながら取り組んでいきたいと思えます。

(2) 二つは、組織拡大の取り組みについてであります。

皆さんご承知のとおり、連合山形は、1989年の12月に結成され、間もなく26年を迎えます。連合山形発足当初は66,000人でスタートし、2,000年代に入り50,000人台となり、今現在約46,000人となっております。組織力と財政力強化に

向けて、組織拡大は待ったなしの、喫緊の課題となっています。

今年度の連合加盟について、のちほど新規加盟組合ということでご紹介申し上げますが。そして今、ある産別のご理解を頂きながら、組織化に向けて取り組んでいるところもあります。

今後さらに、「連合山形・第6次・組織拡大・3ヶ年計画」を踏まえて、年間1,000人の組織拡大目標に向けて、「組織拡大委員会」を軸に、連合本部・各産別の皆さん、各地域協議会の皆さんと連携し、計画的かつ組織的に取り組んでいきたいと思っておりますので、皆さんのご理解とご協力をよろしくお願いしたいと思います。

(3) 三つは、労働者福祉活動の取り組みについてであります。

今現在、県労働者福祉協議会・労福協は、県からの委託を受けて、「生活安心ネットやまがた事業」して電話での「生活なんでも相談」を実施しています。相談内容は法律相談から労働問題、家庭問題などなど多岐にわたっておりまして、年間500件を超える相談件数となっています。引き続き、この取り組みは広く県民の生活や暮らしに寄り添いながら問題解決の糸口を探る取り組みとして連携しながら取り組んでいきたいと思っております。

また、皆さんに署名活動をお願いしていますが、大学など学費の高騰と雇用問題などからの家計収入の減少により、社会問題化している奨学金ローン返済問題について、給付型の奨学金制度導入と教育負担の軽減を求める取り組みについてであります。当面はまず、来年1月末まで署名活動をやりきることでありますが。県に対する要請行動や春闘の取り組みで申しあげましたが、貧困問題や格差是正と連動しての「フォーラム」の開催やその後シンポジウムの開催など社会問題として押し上げるべく年間を通じた運動として取り組んでいきたいと思っております。

(4) 四つは、先の通常国会に見られる安倍政権の反動的で強引な政治の現状と歯止めをかけるべく取り組みについてであります。

労働者派遣法の改悪問題について、結果として「一生涯派遣労働、低賃金、不安定雇用」の固定化につながる内容で強行されました。引き続き、安倍政権は、「残業代ゼロ制度」を盛り込んだ労働基準法改悪を目論んでいるわけでありますので、「働くことを軸とする安心社会」をめざして、これ以上の格差・拡大を許さないために、労働法制改悪反対に全力を挙げていきたいと思っております。

また、集団的自衛権行使の行使に向けた安全保障関連法について、多くの学者が憲法違反と指摘し、多くの国民が反対し、立憲主義の原則を無視し、安倍政権は採決を強行しました。

このような安倍政権の、まさに「むきだしの市場万能主義」による反動的で強引な政治に対し、連合本部段階では、集会やデモ行進などを行い、連合山形としても決起集会など取り組んできましたが、引き続き、連合本部と連携しながら、地方から安倍反動政治に歯止めをかけるべく取り組みを行っていききたいと思っております。

(5) 5点目は、政治闘争としての選挙闘争の取り組みについてであります。

この一年間、各種選挙闘争について、大変なご理解とご奮闘を頂きました。昨年、12月の衆議院選挙では結果として3選挙区ともに自民党が議席を独占する結果となりましたが、2区・近藤洋介代議士については、比例復活当選を果たすことができました。今年4月の統一自治体選挙、さらに、中間自治体選挙では多くの推薦候補の当選を果たすことができました。

そして、9月の山形市長選挙では梅津ようせい候補に対しまして皆さんからご理解とご支援を頂きました。しかし、僅かの差で惜敗をし、ご来賓として出席頂きました、佐藤市長誕生となりました。今後はお互いに、市民の生活向上と山形市政発展に向けてご尽力されますことをご期待申し上げたいと思います。

そして、皆さん、先ほど申し上げました、安倍政権の反動的で強引な政治に歯止めをかけると同時に、政治情勢を転換させるためにも、来年の参議院選挙は極めて重要なたたかいとなります。

今の安倍政権を見ればわかるとおり、政治は私たちの働き方や暮らしと直結しているわけでありまして、まさに、「たとえ政治に無関心であっても、決して政治と無関係にはなりえない」のが現状であります。政治の振り子を揺らすのは我々有権者の投票行動であります。このことを徹底して訴えながら、比例区においてはそれぞれ各産別の組織内・推薦候補必勝に向けてお互いに頑張っていきたいと思います。

また、県選挙区については、安倍反動政権に歯止めをかけるべく県民の期待は大きいわけありますので、この期待に応えるべく、非自民で全体でまとまってたたかう候補者の擁立について、基本は政党の仕事であります。但し、連合山形として、今日は近藤会長お見えでございますが、民主党をはじめ社民党など連携しながら年内を目途に努力していきたいと思っておりますのでよろしくお願いしたいと思います。